

日本人の



京都、こころここに

一步退く慎み

天台座主 半田 孝淳さん



はんだ・こうじゅん 1917年、長野県上田市生まれ。大正大卒。天台宗務庁教学部長などを経て99年探題に。世界平和を祈る「比叡山宗教サミット(87年)」開催などに尽力した。曼殊院門主の後、2007年、第256世天台座主を相承。ことし4月からは全日本仏教会会長も務める。

東日本大震災からすでに1年がすぎた。なぜあのような大災害に見舞われたのか。被災地に立つてみて、私は自然がわれわれに警告を発したように感じられた。



「前に前」では世の中うまくいくはずがない

日本人はかつてない豊かな社会を実現したが、利便や効率ばかりを追求する中で傲慢となり、自然への畏敬を忘れてしまった。利便を支えてきた原子力発電所の、あのひどい壊れ方を見ると、だれしも傲慢さを反省しないわけにはいかない

「征服した」と表現する。自然をねじ伏せたと思ひ込み、自然に生かされている実感や感動がどこかへいつてしまった。日本の山岳信仰では、行者さんたちは今も六根清浄を唱えながら山を登っていく。六根とは眼耳鼻舌身意であり、それ



比叡山の修行は「論湿寒貧」と呼ばれる厳しい環境で続けられる。傲慢を捨て自然を畏敬することなしに、行は成り立たない(延暦寺根本中堂)

利便・効率追求、傲慢になった今こそ「忘己利他」の精神を...

いまこそ忘己利他、「己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」と唱えられた伝教大師のご精神が生かされなければならぬ。東日本大震災では、発生と同時に多くの若い人たちがボランティアに駆けつけた。「電気も水もない。被災者はどうしているか」と思いやり、居ても立ってもいられないから飛んで行った。まさに利他の精神であり、被災地の大きな力になった。こうした行動は日本の希望の芽であり、大切に育てていきたい。法華経に常不輕菩薩の話が出てくる。

被災地の若きボランティアが希望の芽に

みんなが傲慢になり前に出るばかりでは、世の中はうまくいくはずがない。謙譲と慎み、一步退く心の動きが起きないのは困ったことだ。世の中は人間どうしの共同生活だから、自分を慎み他人を思いやるのが欠かせない。

「論湿寒貧」に耐え全うする 比叡での修行

龍山行や回峰行に打ち込んでいる比叡山の僧たちは、常不輕菩薩の行を身をもって実践している立場だ。朝早く起きて山中をめぐりお一人お一人の仏様を拜む。そうすると、最後には道端の石まで拜む気持ちになってくる。



戦後、日本人は物の豊かさや引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

日本の暦

八十八夜

ゴールデンウィークに入り、あさってはもう5月。こころはもう5月なので、平年なら5月2日の「八十八夜」は1日に早まりました。立春から数えて88日にあたるこの日は昔から八十八夜の別れ霜」という言葉があるように、遅霜の危険が残る最後の時期とされます。茶摘み作業をする農家にとって油断を戒める日でもあります。日本の旧暦は農事暦の性格が強くお百姓さんたちの体得した農業の知恵が詰まっています。八十八夜はその代表格。江戸時代から暦に載るようになり、明治になって「夏も近づく八十八夜」と小学唱歌にも歌われるようになり、すっかり定着しました。



田中 中鶴子さん 学校法人大和学園 教務学部長

子育て四力条

- (一) あいさつは明るく笑顔で
(二) 返事は大きくはっきりと
(三) 人の嫌がることはしない
(四) 神仏(先祖)を大切に
これは、私の子育て四力条です。と申しても、私が子育てをしてきたのは半世紀以上前のことですから、時代が違ったことと笑われるかもしれません。

近頃は、ウェブや多機能携帯端末によって、時や場所を選ばずコミュニケーションが可能で、便利な時代になりました。半面、胸襟を開いて、言葉やしぐさで礼節を交わす温もりのあるあいさつが忘れられているようで、寂しい気がいたします。

学園では、古くからあらゆる年齢層に好印象をもって受け入れられる身だしなみ、立ち居振る舞い、あいさつなど、礼儀や規範教育に力を注いできました。人心の荒廃が危惧される現代社会だからこそ、専門知識や技能とともに、正しい態度、姿勢など横断的能力の醸成が大切と感じます。

ホスピタリティ精神と人間的な魅力を兼ね備えた人の存在が社会を豊かに明るくします。気持ちよくあった「あいさつ」こそが、おもてなしの原点ではないでしょうか。昔は子育てで四力条でしたが、現代社会には「大人に必要な四力条」と言えるかも知れません。

(次回5月6日のリレーメッセージは、京都女性スポーツの会会長の水野加奈子さんです)

「日本の忘れもの」は、京都新聞ホームページ http://kyoto-np.jp/kp/kyo-np/info/awc/Pa/awc2474.htm

Advertisement for ZYCC (Zenyu Co., Ltd.) featuring a large fan graphic and the text '扇影' (Shō Eiji). The ad includes the company name, website (www.zycc.co.jp), and a list of services and locations. It also features a quote in French: 'Cette nuit dans mon lit je vois que ma main trace une ombre sur le mur. La lune s'est levée.' and another in Japanese: 'Que le souffle de l'éventail disperse les mots et ne laisse passer que ce qui compte.' The ad mentions the company's 2005th anniversary and its commitment to various fields like architecture and education.